



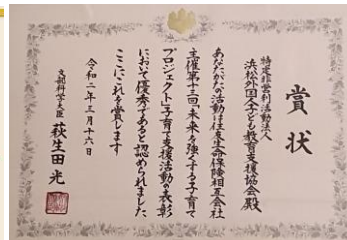
第13回 未来を強くする子育てプロジェクト 「スミセイ未来大賞・文部科学大臣賞」受賞

当団体は活動開始当初から、日本語に加えて母語支援にも力を注いできました。その長きに渡る活動が社会に認められ、地域のロールモデルとなりうるものであること、高い志と行動力、気概を持った団体であることを評価され、今回の受賞に至りました。

「未来を強くする子育てプロジェクト」とは

住友生命保険相互会社が、すこやかな子育てと夢のある未来づくりを応援するために2007年から取り組んでいる公募事業です。

より良い子育て環境づくりに取り組み、優れた成果を上げている団体や個人に贈る「子育て支援活動の表彰」と、人文・社会科学分野を専攻し、現在子育て中の女性研究者を支援する「女性研究者への支援」の2つの部門があり、過去12回の表彰を通じて、134組の子育て支援活動と、121名の女性研究者への支援を行っています。



「子育て支援活動の表彰」受賞者 (応募数 220組)

- スミセイ未来大賞/文部科学大臣賞
特定非営利活動法人 浜松外国人子ども教育支援協会
- スミセイ未来大賞/厚生労働大臣賞
特定非営利活動法人 子育てネットくすくす
- スミセイ未来賞(10組)



選考委員長 汐見稔幸氏(東京大学名誉教授、日本保育学会会長)

選考委員

大日向雅美氏(恵泉女学園大学学長)

奥山千鶴子氏(認定NPO法人びーのびーの理事長)

米田佐知子氏(子どもの未来ネット代表)

高田幸徳氏(住友生命保険相互会社執行役常務)

外国人の子ども支援員養成講座 主催：静岡県、(公財)静岡県国際交流協会 共催：三島市、袋井市

東部会場

日時：1月8、15、22日
会場：三島市立北小学校
講師：信田美智子、寺澤昌子

西部会場

日時：1月27日、2月3、10日
会場：袋井市役所、袋井市総合センター
講師：信田美智子、鈴木絵美

中部会場

日時：2月17日、3月2、16日
会場：静岡県男女共同参画センター
講師：信田美智子、菅原明子

講座内容：

- 第1回『初期適応指導、日本語基礎指導① -文字表記-』
- 第2回『日本語基礎指導② -動詞と初級の文型-』
- 第3回『日本語基礎指導③ -形容詞と副教材の使い方(こそあど)-』

静岡県の委託事業「外国人の子ども支援員養成講座」(3会場)に講師を派遣しました。日本語基礎指導について、副教材を紹介しながら、実践的な授業を教示しました。初期適応指導については、浜松市の体制を説明しました。同じ静岡県でも他市においては、日本語指導の体制がまだ整っていないこと、副教材や研修会もあまりないことを知りました。その理由によるものか、受講生の熱心さは、私たち講師にも伝わってくるものがありました。(信田美智子)

外国人の子ども支援員養成講座を東部会場、西部会場、中部会場で各3回行ないました。

「とても勉強になった」「大変わかりやすかった」「手作り教材が参考になった」「副教材のアイデアが素晴らしかった」「封筒、クリアファイルなど身近なもので副教材を作ることができると知り、とても役立つと思った」など感想をいただきました。受講生の方の「日本語(日本語の教え方)について知りたい」という熱い気持ちが感じられた養成講座でした。(鈴木絵美)



NHKニュースで紹介されました

実践に即して、子ども向けというのがとてもわかりやすく、ゲームなどの身に付け方も参考になりました。副教材も視覚に訴えていてわかりやすいです。(西部2回目)



ワークショップの様子



新型コロナ対策のため、全員マスク着用です

初期指導の大切さがよく理解できました。母国語にまで心配りする大切さも知りました。副教材の工夫が素晴らしいと思いました。長年の経験から生まれたものだと思います。今日はありがとうございました。次回もよろしく願っています。(東部1回目)



自粛ムードの中、開催していただきまして、感謝申し上げます。現在、日本語教師養成講座に通学していますが、子供向けの教授法はカリキュラムにないので、とても参考になります。継続してこの講座を受けたいです。(中部3回目)

令和元年度 母国語教室（まつっこ教室） 修了式

2月29日(土) ベトナム語教室 12人(三方原協働センター) スペイン語教室 19人(南部協働センター)



ポルトガル語教室 182人(市民協働センター)



新型コロナウイルス感染拡大の影響で、マスク着用の修了式となりました。ポルトガル語教室は、6年生だけで行いました。でもみんな素敵な笑顔です。

日本語・学習支援者より 1年間の支援を終えて

本年度は、43人のTOMO2の指導者が小学校22校(185名)、中学校13校(22名)で支援を行いました。

一年生の男の子三人を受け持ちました。教室の1/6くらいのスペースで学習を始めると、それぞれのクラスで緊張して過ごしていた子どもたちの「出来る!」「俺が」「僕が先に答えた!」とクラスでは出来ない自分アピールが嵐の様に始まります。隣の子の答えをそのまま書いてすました顔で座っているのを「写して書いても出来たことにはならないよ」と諭すと、大きな目に涙を浮かべて席から離れ「だってわからないんだもん」と部屋の隅で膝を抱えています。こんな可愛い子を泣かさずとも、もっと良い声かけの仕方があったのではと私も後ろめたい気持ちを抱くことになりました。わからなかったことを誉め、わからなくても恥ずかしくない事、どこがわからなかったかをごまかさずに言える事を大切にしました。出来なかった子に対して「やった!」のアピールはどうか?と間違えた子への配慮を促し、三人のバランスも意識しました。

この様に学習以前にも時間がかかりましたが、2学期が終わる頃には三人に変化が現れて来ました。一人は自分の方が出来るぞとばかりにニヤリとする余裕も見せるようになり、一人は自分の書いたものを泣かずに直せる様になりました。一人は諸事情でインドに帰ったままですが、二人はまた三人で勉強するのを楽しみにしています。学習が終わって部屋を出て行く明るく屈託のない笑顔、「失礼しました。」と挨拶する姿を見送るのが私は大好きです。(芳川北小 片山良江)

一年生は、知りたい、やりたい、できるようになりたいという気持ちでいっぱいです。

教室での学習と並行している部分もあり、ひらがなの学習はスムーズに進みました。カタカナは、ほぼ教室で習得できたようです。それでも個人差もできてきて、少し忘れただけで、「カタカナはできないからボクは書かないもんね。」というコマツ君も。でも「教室にあるもの」というテーマで言葉集めをした時には、見つけた物や新しく知った物を、ひらがな、カタカナを使い分けて書けました。

みんなお話するのが好きで、教室でする様に、発表一質問のやりとりの中で、学習した過去形や助詞を確認しました。いちばんたくさん話す子の指導記録Bに、担任から「発表がほとんどなく、友だちと会話できるとよい」とのコメントがあり、意外でした。屈託のないように見えても、家庭で日本語環境がないと、不安もあるのでしょうか。日本語支援しつつも、まちがっても大丈夫という励ましも必要かなと思います。(佐鳴台小 清水範子)

企画研修部より

文集『TOMO2』第二号 完成!

昨年に引き続き、今年も文集「TOMO2」が完成しました。今回は、全部で32作品が集まりました。

どの作品も、考えや感じたことが自分らしい表現で書かれていて、すばらしかったです。

子どもたちにとって、作文を書くことは大変なことだと思います。しかし、ある程度まとまりのある文章を書き上げたことで、自信につながったことと思います。また、指導者にとっても、投稿作文を読むことで、陥りやすい表現の誤りや不足している語彙など、共通する課題が見えてくると思います。

これからも、作文を通して、子どもたちが「書く」ことに慣れていけるよう、引き続き作文指導の時間を持っていただけるようお願いいたします。

今回は、参加生徒とその支援者へ配布しました。事務局に貸し出し用が3部ありますので、ご活用ください。



お知らせ

< 今後の予定 >

- ◆ 4月全体ミーティング&ガイダンス研修
日時：4月13(月)、14(火)、16(木)13:30~15:30
会場：あいホール 3F会議室
- ◆ NPO総会
日時：5月23日(土)10:00~12:00
会場：あいホール 3F会議室
- ◆ 母国語教室(まつっこ)開講式 6月6日(土)
会場：スペイン語/南部協働センター
ベトナム語/三方原協働センター
ポルトガル語/可美公園総合センター
- ◆ 7月全体ミーティング
日時：7月13日(月)13:30~15:30
会場：あいホール 3F会議室

TOMO2ホームページ リニューアルしました
<http://www.tomo2kodomo.com/>
Facebook 随時更新中
広報担当：青島・川島・萩原・谷本

